

WEEKLY SIGNAL

2020年3月27日(金) 1518号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

3/30(月)		3/31(火)		4/1(水)		4/2(木)		4/3(金)	
無担保O/N				△ 0.087%	～	0.001%			
銀行券	△ 500	ト ン		+ 1,000		ト ン		ト ン	
財政他	+ 40,100	+ 8,400		△ 20,000		△ 9,000		+ 4,000	
資金需給	+ 39,600	+ 8,400		△ 19,000		△ 9,000		+ 4,000	
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 年度末諸払い	年度末諸払い		国債発行(2年)		法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税		国債発行(10年)	
オペ期日	補完供給 + 1,600 CP △ 700 共通担保 △ 8,800	国債売現先 + 16,000		国債売現先 + 20,000		国債売現先 + 8,000 米ドル資金供給用 担保国債供給 + 42,600		国債売現先 + 12,000 米ドル資金供給用 担保国債供給 + 18,400	
オペスタート	国債買入 + 11,500 共通担保 + 10,800 国債売現先 △ 8,000 ETF + 300 米ドル資金供給用 担保国債供給 △ 15,800	国債売現先 △ 20,000 CP等買入 + 5,500							
(日本)		有効求人倍率(2月) 失業率(2月) 鉱工業生産(2月) 小売売上高(2月)		日銀 短観(1Q)					
(海外)	米 中古住宅販売成約指数(2月) 米 ダラス連銀製造業景況指数(3月) ユーロ圏 景況感指数(3月) ユーロ圏 消費者信頼感指数(3月)	米 消費者信頼感指数(3月) ユーロ圏 CPI(3月) 英 GDP(4Q)		米 ADP雇用統計(3月) 米 ISM製造業景況指数(3月) ユーロ圏 製造業PMI(3月) ユーロ圏 失業率(2月)		米 新規失業保険申請件数(3月28日) 米 貿易収支(2月) 米 製造業受注(2月) ユーロ圏 PPI(2月)		米 雇用統計(3月) 米 ISM非製造業総合景況指数(3月) ユーロ圏 総合PMI(3月) ユーロ圏 サービス業PMI(3月) ユーロ圏 小売売上高(2月)	

【インターバンク市場】

無担保タム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初402兆3,400億円から始まった。その後は国債売現先や米ドル資金供給用担保国債供給等の影響から同残高は減少し、394兆5,700億円で越週した。
無担保コールON物は、先週に引き続きビッドサイドの調達意欲が旺盛で、週を通して底堅い展開となった。なお同加重平均金利は週初△0.048%から上昇基調を辿り、週末は△0.017%となった。一方タム物取引はオファーが薄かったため、閑散としていた。
23日に約3年ぶり(2017年3月24日以来)に国債売現先オペ(期間3/24-3/31)が8,000億円オファーされ、3兆円の応札が集まった。
また24日に米ドル資金供給オペが2本(1週間物・3か月物)オファーされ、3か月物は過去最高額となる73,805百万米ドルの落札となった。
来週の主な予定は、国内では31日に失業率(2月)、鉱工業生産(2月)、1日に日銀短観の公表などがある。海外では、2日に米新規失業保険申請件数、3日に米雇用統計の公表などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.100
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆9,000億円で、週間償還額(5兆1,000億円)を大幅に下回った。発行市場は、有利子負債の圧縮を見据えて期日償還が多く見られた。月末の大量償還(約3兆8,000億円)に対し、新規発行は8,500億円強にとどまった。発行残高は、例年に比べると3月中の発行残は高水準で推移しており、先週末の24兆8,573億円から24日時点では25兆1,120億円程度と過去最高の残高となった模様。この発行拡大に伴い、発行レートは上昇傾向が顕著となり全ての銘柄でプラスレートでの出合いであった。26日にオファーされたCP等買入れオペは増額され、5,500億円で実施された。ディーラーの売却ニーズは強く、按分レート0.003%・平均落札レート0.008%と前回(按分△0.001%・平均落札0.002%)を上回る結果となった。
来週の週間償還額は、約1,800億円となっている。発行市場は、有利子負債の圧縮で3月末残高を調整した事業法人の発行再開や手元流動性を確保したいという企業の発行ニーズもあって、発行超が予想され活況となるだろう。発行レートは、引き続き上昇地合いでプラス圏での出合い中心と思われる。

<TDB>

27日入札の3M897回債(6/29償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1022%(前回債△0.2024%)、平均落札利回り△0.1884%(同△0.2897%)となり、入札後は△0.14%~△0.18%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは、3M896回債(6/22償還)が、23日の午前中に△0.285%で取引されたものの、同日午後には△0.42%まで取引され、その後25日までは△0.48%~△0.41%のレンジで推移し、以降は△0.36%で取引が見られた。また6M893回債(9/10償還)は△0.343%~△0.30%のレンジで取引されている。

<レポ>

今週の足許GC取引は、週初△1%を超える出合いからスタートしたものの、日銀による売現先オペがオファーされたことなどにより、徐々にレートが上昇した。週央以降は△0.30%~△0.20%の水準で取引され、短期3Mの発行日となる30日受渡しの取引では△0.10%台前半までレートが上昇した。なお、3月末を超える売現先オペは合計4兆円オファーされた。
SC取引は、2年410回債、5年137~142回債、10年352~357回債、20年169~171回債、30年63~65回債、40年12回債など各年限のカレント近辺で引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。